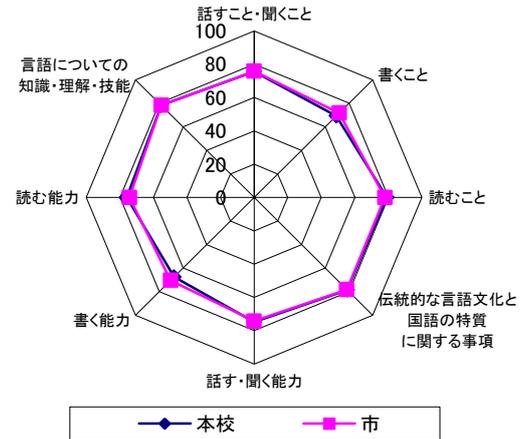


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	75.7	75.9	71.7
	書くこと	69.3	71.8	73.2
	読むこと	79.2	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.5	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	74.7	74.2	70.8
	書く能力	67.6	70.4	71.0
	読む能力	75.9	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	78.4	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

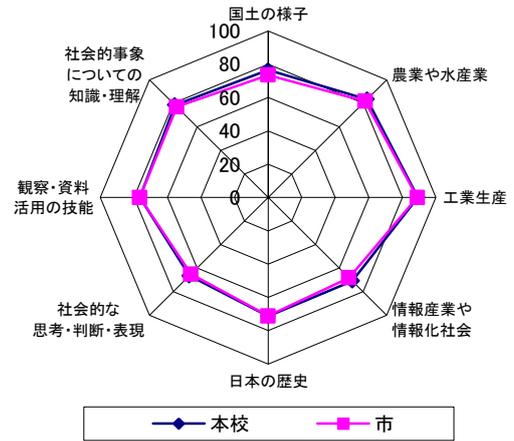
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は、市の平均をやや下回った。 ○話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞く」という設問の正答率は100ポイントと高かった。 ●話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞く」という設問の正答率は、市の平均正答率よりも4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合いの学習を行う際、これまで通り話し手の意図や工夫を考えながら聞くことができるようにする。そして、役割を固定することなく、話し手や聞き手、司会者など、それぞれの立場にたって話したり聞いたりすることができるようにしていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の平均正答率は、市の平均正答率を2.5ポイント下回った。 ○話し合いをもとに安全マップを作る」という設問の正答率は、市の平均をやや上回った。 ●「グラフから読み取った事実をもとに、自分の意見を書く」という設問の正答率は、市の平均を10.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取ったことをもとに文章を書くという学習の機会を増やしていく。国語の学習だけでなく、他の教科においても文章を書く機会を設け、作文力が高まるようにする。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の平均正答率は、市の平均正答率を1.2ポイント上回った。 ○「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」の設問の正答率は、全てにおいて、市の平均と同等かそれ以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「物語文」については、登場人物や中心人物についての描写に着目しながら、教材文を読み取っていくように指導していく。 ・「説明文」については、段落相互の関係を的確に押さえながら読んだり、要点を確認しながら読んだりすることができるよう、接続詞や指示語などに注意しながら読み取るよう指導していく。 ・様々な分野の図書に触れることができるよう、読書を奨励していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の平均正答率は、市の平均正答率をやや上回った。 ○「漢字を読む」の設問の全てで、正答率が市の平均を上回った。 ●「5年の配当漢字を書く」の設問で、正答率が市の平均を8.4ポイント以上下回るものがあった。 ●「文の中における主語」の設問の正答率が市の平均を9.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きについては、ドリル等で繰り返し学習を行い、小テストや宿題などで定着を図っていく。 ・国語辞典の活用を図り、言葉に関心を持てるように指導していく。 ・文章を書いたり読んだりする際に、「いつ・どこで・だれが・どうした」などを意識できるように支援をしていく。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	76.5	73.6	76.2
	農業や水産業	83.4	81.9	77.5
	工業生産	89.2	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	70.9	68.2	61.0
	日本の歴史	71.3	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.4	65.1	62.1
	観察・資料活用技能	76.5	76.5	75.2
	社会的な思考・判断・表現	78.6	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

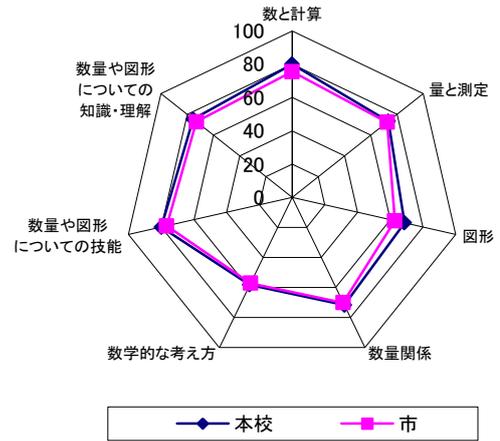
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○本校の平均正答率は、市の平均正答率を2.9ポイント上回った。 ●「主な国の名称と位置」の理解が、市の平均正答率を6.5ポイント下回った。 ○「公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さを考える」設問では、市の平均正答率を16.1ポイント上回った。	・日常的に地図帳を活用し、学習に出てくる国や地域を地図帳で確認する習慣をつけ、興味や関心を高めていけるようにする。
農業や水産業	○本校の平均正答率は、市の平均正答率をやや上回った。 ●「日本の主な食糧生産物の分布」に関する資料の読み取りについての設問は、市の平均正答率を1.4ポイント下回った。 ○「食料の中には外国から輸入しているものがあることを示す資料について考える」設問は、市の平均正答率を3.9ポイント上回った。	・日本の食糧事情に関する時事的な話題を取り上げたり、映像資料や資料集を活用したりするなど、児童の興味、関心を高める工夫をしていく。
工業生産	○本校の平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じであった。 ○「様々な工業製品が国民生活を支えていること」についての理解、「工業生産に従事している人々による環境保全への取り組みについて」資料を読み取って考え表現する設問は、いずれも市の平均正答率を0.3ポイント上回った。	・資料やデータの読み取りを丁寧に行い、気が付いたことを友達と共有する機会を設け、関連性や特徴を読み取る力を育てる。
情報産業や情報化社会	○本校の平均正答率は、市の平均正答率をやや上回った。 ○「放送、新聞などの役割や責任の大きさ」について考える設問は、市の平均正答率を4.4ポイント上回った。 「情報ネットワークと国民生活とのかかわりについて」資料を読み取る設問では、市の平均正答率を1.2ポイント上回った。	・情報の働きは、国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、マイナスの影響などについても具体的に取り上げ、現実的な問題として関心を高める指導の工夫をしていく。
日本の歴史	○本校の平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じであった。 ●縄文時代から奈良時代の設問では、市の平均正答率を5ポイント以上下回った。 ●「幕末から明治の初めに活躍した人物の働きについての理解」の設問では、市の平均正答率を10.4ポイント上回った。	・各時代の代表的な出来事や人物について、単に暗記するのではなく、出来事の関連や時代背景などについて、総合的に考えられる力を育てていく。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.1	75.6	75.8
	量と測定	73.3	72.5	71.2
	図形	68.6	62.8	71.0
	数量関係	71.8	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	58.3	57.2	52.7
	数量や図形に関する技能	80.0	76.7	74.1
	数量や図形に関する知識・理解	75.4	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

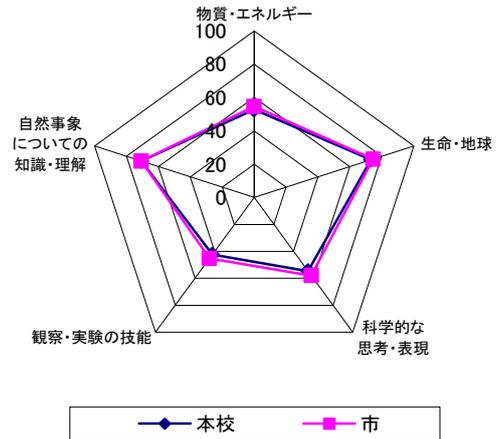
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○本校の平均正答率は、市の平均正答率を4.5ポイント上回った。</p> <p>○特に分数と小数の乗法・除法の計算の正答率が高かった。</p> <p>●図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ設問は、市の平均正答率を15.1ポイント下回った。</p>	<p>・計算力を高めるために、練習問題にくり返し取り組んできた成果が現われてきている。今後も継続していくと共に、さらにドリル等を活用して効果的な指導を工夫していく。</p>
量と測定	<p>○本校の平均正答率は、市の平均正答率をやや上回った。</p> <p>○三角形や台形の面積を求める設問は、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○速さと時間から道のりを求める設問では、市の正答率を7.6ポイント上回ったものの、50%と低かった。</p> <p>●円柱の体積を求める設問では、9割近くの正答率ではあったが、市の平均を4.9ポイント下回った。</p>	<p>・「速さ」の学習については、数直線や図などを用いて自分で説明する活動を増やしながら意味をとらえさせていくことで、定着を図っていく。</p>
図形	<p>○本校の平均正答率は、市の平均正答率を5.8ポイント上回った。</p> <p>○点対称な図形を選ぶ設問は正答率が85.1%と高く、市の平均を15.5ポイント上回ったが、線対称な図形を選ぶ設問は、市の平均を上回ったものの正答率は52.7%と低かった。</p> <p>●七角形の内角の和を求める式を選ぶ設問は、市の平均正答率を4.6ポイント下回った。</p>	<p>・習熟度別少人数指導により、きめ細やかな指導をすることで、図形に関する知識が定着している。今後も習熟度別に合った指導法を考え、児童の理解に結びつくようにしていく。</p> <p>・多角形の内角の和については、既習内容を確認し、ドリルやプリント等でくり返し復習し、定着を図っていく。</p>
数量関係	<p>○本校の平均正答率は、市の平均正答率を1.7ポイント上回った。</p> <p>○一方の文字の値から他方の文字の値を求める設問では、市の平均を5.5ポイント上回った。</p> <p>●帯グラフから割合を読み取る設問は、市の平均を6.7%下回った。</p> <p>○帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める設問は、8.7ポイント市の平均を上回った。</p>	<p>・割合の読み取りについては、くり返し練習問題に取り組みせ、定着を図っていく。</p>

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	52.8	54.6	57.5
	生命・地球	73.2	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	54.6	58.0	59.6
	観察・実験の技能	42.4	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	70.6	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の平均正答率は、市の平均正答率を1.8ポイント下回った。 ●「水溶液の性質」の設問全てで、正答率が市の平均を下回った。	○ある事象についての課題・予想・実験手順・考察を一つ一つ丁寧に確認する時間をより多く設け、体験的に学べる機会をふやし、技能面の定着を図る。 ●復習のための小テストやワークシートを活用し、知識の定着を図る。
生命・地球	○本校の平均正答率は、市の平均正答率を1.3ポイント下回った。 ●「月と太陽」の設問全てで、正答率が市の平均を下回った。	○児童の理解がより確かなものとなるよう、指導の際に資料や映像を多く活用していく。また、事象について一つの見方だけでなく、多面的に考え自ら行った予想と結果を推論する時間を設ける。 ●復習のための小テストやワークシートを活用し、知識の定着を図る。